

製本のススメ

Vol. 108

あつという間に春爛漫！虫たちも活動を開始したようで、先日菜の花畑にはモンシロチョウが舞っていました。そして、紫外線も強くなる季節です！特に女性はしっかりと日焼け止め対策開始ですね。

今回は「ペラにも色々」の話し

処変われば呼び名もかわる 前号に続きペラのお話です。

『ペラ (ペラ丁)』とは、**枚葉のまま(折られていない)**の本文刷紙ですが、同時に一枚物の総称としても使われます。しかし加工では あくまでも本文としての呼び名に使われます。その為電話口などで扉や口絵などをペラと表現してしまうと、総ページ数が合わない・台割の順序がおかしい等、特に見積もり時点での不明点が多くなってしまいます。

『扉』とは、**見返しの遊び紙の次**に入り、タイトルや副題・著者名などが印刷され 本文よりも厚手で上質な用紙の使用が一般的で、標題紙とも呼ばれます。本文中に副題がある際には扉を区別するために「大扉(材ビウ)」「中扉(カビウ)」と表現します。最近ではコストの事もあり、口絵が無い場合に本文と同じ折り丁中に印刷することも多くなりました。この場合は別丁扱いでなく本文扱いです。

『口絵』は**扉の次**に位置し、絵や写真など巻頭に載せるもので、紙質もアートコートが多く、内容によっては折丁になる事もあります。

順序としては、表紙を開けると見返し 扉 口絵ですので、口頭での説明の際には、口絵のみペラ丁か折丁かの指示が有れば、わかり易いでしょう。

余談になりますが【前付け】という表現があります。これは**本文よりも前に付け加える物**という意味で 扉・口絵・序文・目次・献辞・凡例の総称です。書籍を専門に扱う会社（印刷・製本）での打ち合わせなどでは、頻繁に出てくる言葉ですので、ぜひとも覚えておきましょう。



Teabreak

いよいよGWです。今年も立川南口すずらん通りでは、恒例『立川フラメンコ』が行われます。4月26日からは すずらん通り商店街での出前フラメンコを開始。5月6日は総勢600人での華やかなストリートフェスタです。スペイン大使館からも応援頂き、本場のフラメンコも開催。GW何の予定もないという方、ちょっとだけ異国ムードですので 足を運んでみてはいかがでしょうか。

by (株) 井関製本